

京丹後市立図書館

2024年度

おすすめの本

中学年
3・4年生向き

『あいちゃんのひみつ ダウン症をもつあいちゃんの、ママからのおてがみ』（岩崎書店）

竹山 美奈子/取材・文 えがしら みちこ/絵 玉井 邦夫/監修



ダウン症をもつ女の子、あいちゃん。ゆっくりだけどころなことができるようになってきた、あいちゃんは、特別支援学校から地元の小学校に転校し…。ダウン症の特徴や原因、接し方が「なるほど」とわかる絵本。

『麦畑のみはりばん』（化学同人）

ベス・フェリー/文 テリー・ファン/絵 エリック・ファン/絵

よしい かずみ/訳



かかしはひとりぼっち。こがね色をした麦畑のみはり番です。キツネもシカも、ネズミもカラスもお断り。ところがある日、カラスのひなが木の上から落ちてきて…。

『大人も知らない？ ふしぎ現象事典』（マイクロマガジン社）

「ふしぎ現象」研究会/編 ヨシタケ シンスケ/イラスト



テストの前の日になると部屋の掃除がしたくなる。本屋にいたとなぜかトイレに行きたくなる…。身の回りによくある現象や体の不思議な現象の名前を紹介。楽しいイラストや、ふしぎ現象コラムも掲載する。

『家をせおって歩く かんぜん版』（福音館書店）

村上 慧/作



発泡スチロールで作った小さな家を背負い、各地を移動しながら生活する村上慧さん。何を食べ、どこで眠っている？「くらし」の概念を変える、驚きとロマンに満ちた本。見返しに奥付あり。

『ケイゾウさんは四月がきらいです。』（福音館書店）

市川 宣子/さく さとう あや/え



ケイゾウさんは、幼稚園に住むにわとり。うさぎのみみこがやってきてから、ケイゾウさんの暮らしは、一変して…。けんかばかりのふたりはどうなる？ 月刊雑誌『母の友』に掲載された9編に、書き下ろし1編を新たに収録。

『コケシちゃん』（フレーベル館）

佐藤 まどか/作 木村 いこ/絵



スイスから来たコケシのような顔をした女の子、京ちゃん。堂々としていて、はっきり物事を言う京ちゃんに、内気なくるみは戸惑い…。みんなと仲良くなれる物語。

『友だちは図書館のううれい』（金の星社）

草野 あきこ/文 山田 花菜/絵



いつもひとりぼっちの転校生・大智は、学校の図書館で古い学級新聞を見つけた。新聞に触れたとたん、男の子のううれいが現れた。もしかすると、この子となら友だちになれるかも…。少しこわくて、心があったかくなる物語。

『はじめましてのダンネバード』（くもん出版）

工藤 純子/作 マコカワイ/絵



4年2組の蒼太のクラスにネパールからの転校生エリサちゃんがやってきた。日本語を話さないエリサちゃんは、クラスの中でひとりぼっちになって…。相手の気持ちに立って想像すること、多様性を尊重することの大切さを伝える。

『ハニーのためにできること』（童心社）

楠 章子/作 松成 真理子/絵



おばあちゃんが亡くなり、老犬のハニーを引き取るようになったふたば。しかし、ハニーは重い病気になってしまう。ふたばは両親とともに看護するが…。「命」を見つける物語。『毎日新聞』大阪本社版連載を改稿し単行本化。

『ミミズは耳がいい?』（文溪堂）

谷本 雄治/作 こぐれ けんじろう/絵



釣りに行って、えさのミミズに興味を持った小さな「むし探偵」ユウくん。さっそくミミズをつかまえて、調査を開始しますが…。お話を楽しむうちに、身近な生き物のことがどんどん知りたくなる。読んで楽しむ自由研究本。

無断での複写・転載を禁止します。本の内容紹介はTRC MARCより転載しています。

ほかにもあるよ おすすめの本

『こんなおおきなかず、みたことある?』
セス・フィッシュマン/作
イザベル・グリーンバーグ/絵 竹内 薫/訳
(偕成社)

『ふしぎなカビ オリゼー』
千年の物語 和食をささえる微生物
竹内 早希子/著
(岩崎書店)

『ぼくたちのだんご山会議』
おおぎやなぎ ちか/作 佐藤 真紀子/絵
(汐文社)



貸し出し中の本は予約もできます。くわしくは職員におたずねください